

う 鳥 き
た は み
え の
る

原作
佐藤泰志

監督

三宅 唱

出演

柄本 佑

石橋静河

染谷将太

音楽

Hi'Spec

製作

函館シネマアイリス

制作

Pigdom

配給

コピアポアフィルム

函館シネマアイリス

2018年

109分

2.35

カラー

5.1ch



函館の夏、まだ何ものでもない僕たち3人はいつも一緒だった——
佐藤泰志の原作をもとに、若手実力派俳優と新鋭監督がつくりだした、
今を生きる私たちのための青春映画。

函館郊外の書店で働く「僕」と一緒に暮らす失業中の静雄。「僕」と同じ書店で働く佐知子加わり、3人は、夜通し酒を飲み、踊り、笑いあう。だが微妙なバランスのなかで成り立つ彼らの幸福な日々は、いつも終わりの予感と共にあった。『海炭市叙景』(2010)、『そのみにて光輝く』(2014)、『オーバー・フェンス』(2016)に続く、佐藤泰志の小説の映画化4作目。監督を務めたのは、『Playback』(2012)、『THE COCKPIT』(2015)など意欲的な作品を制作してきた新鋭・三宅唱。原作の骨格はそのままに、舞台を東京から函館へ移し、現代の物語として大胆に翻案した。語り手である「僕」を演じるのは、『素敵なダイナマイトスキャンダル』(2018)の柄本佑。友人・静雄役は、若手随一の実力派俳優、『空海-KU-KAI-美しき王妃の謎』(2018)の染谷将太。『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』(2017)で数多くの賞を獲得した石橋静河が、ふたりの男たちの間を行き来する佐知子役を透明感あふれる演技で魅せる。3人が過ごす何気ない日常を、かけがえのないきらめきと共に描いた本作。期待の若手俳優たちの瑞々しい演技は、見たことのない輝きで私たちに驚かせる。函館の街の匂い、夏の光をそのままに映し出し、若手実力派俳優と新鋭監督がつくりだした、今を生きる私たちのための青春映画。



函館郊外の書店で働く「僕」(柄本佑)は、失業中の静雄(染谷将太)と小さなアパートで共同生活を送っていた。ある日、「僕」は同じ書店で働く佐知子(石橋静河)とふとしたきっかけで関係をもつ。彼女は店長の鳥田(萩原聖人)とも抜き差しならない関係にあるようだが、その日から、毎晩のようにアパートへ遊びに来るようになる。こうして、「僕」、佐知子、静雄の気ままな生活が始まった。夏の間、3人は、毎晩のように酒を飲み、クラブへ出かけ、ビリヤードをする。佐知子と恋人同士のようにふるまいながら、お互いを束縛せず、静雄とふたりで出かけることを勧める「僕」。そんなひと夏が終わろうとしている頃、みんなでキャンプに行くことを提案する静雄。しかし「僕」は、その誘いを断り、キャンプには静雄と佐知子のふたりで行くことになる。次第に気持ちが近づく静雄と佐知子。函館でじっと暑さに耐える「僕」。3人の幸福な日々も終わりの気配を見せていた……。



出演:柄本佑 石橋静河 染谷将太 足立智充 山本亜依 柴田貴哉 水間ロン OMSB HiSpec 渡辺真起子 萩原聖人 | 脚本・監督:三宅唱 | 原作:佐藤泰志(『きみの鳥はうたえる』河出書房新社/クレイン刊)
音楽:HiSpec | 撮影:四宮秀俊 | 照明:秋山恵二郎 | 録音:川井崇満 | 美術:井上心平 | 助監督:松尾崇 | ラインプロデューサー:城内政芳 | アソシエイトプロデューサー:寺尾修一 | 衣裳:石原徳子 | メイク:石川紗織
小道具:平野藍子 | キャスティング:神林理央子 | ステール:鈴木淳哉 石川崇子 | 制作主任:小林大地 | 企画・製作・プロデューサー:菅原和博 | プロデューサー:松井宏 | 製作:函館シネマアイリス
制作:Pigdom | 配給:コピアフィルム 函館シネマアイリス | 宣伝:岩井秀世 大橋映歩 | 2018年 | 106分 | 2.35 | カラー | 5.1ch | ©HAKODATE CINEMA IRIS

kiminotori.com

9月1日(土)よりロードショー

全国共通特別鑑賞券 ¥1,400(税込)発売中!

特製ポストカード3枚組付(数量限定)



新宿 武蔵野館

JR新宿駅中央東口ビックロ裏武蔵野ビル3F
03-3354-5670 | shinjuku.musashino-kjp

EUROSPACE
EUROSPACE

渋谷文化村前交差点左折
03-3461-0211 | www.eurospace.co.jp